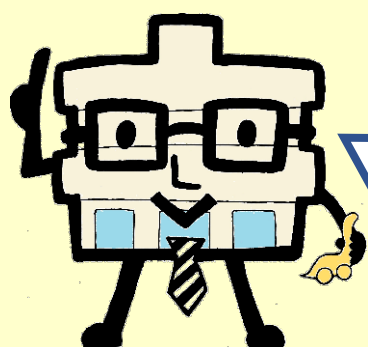
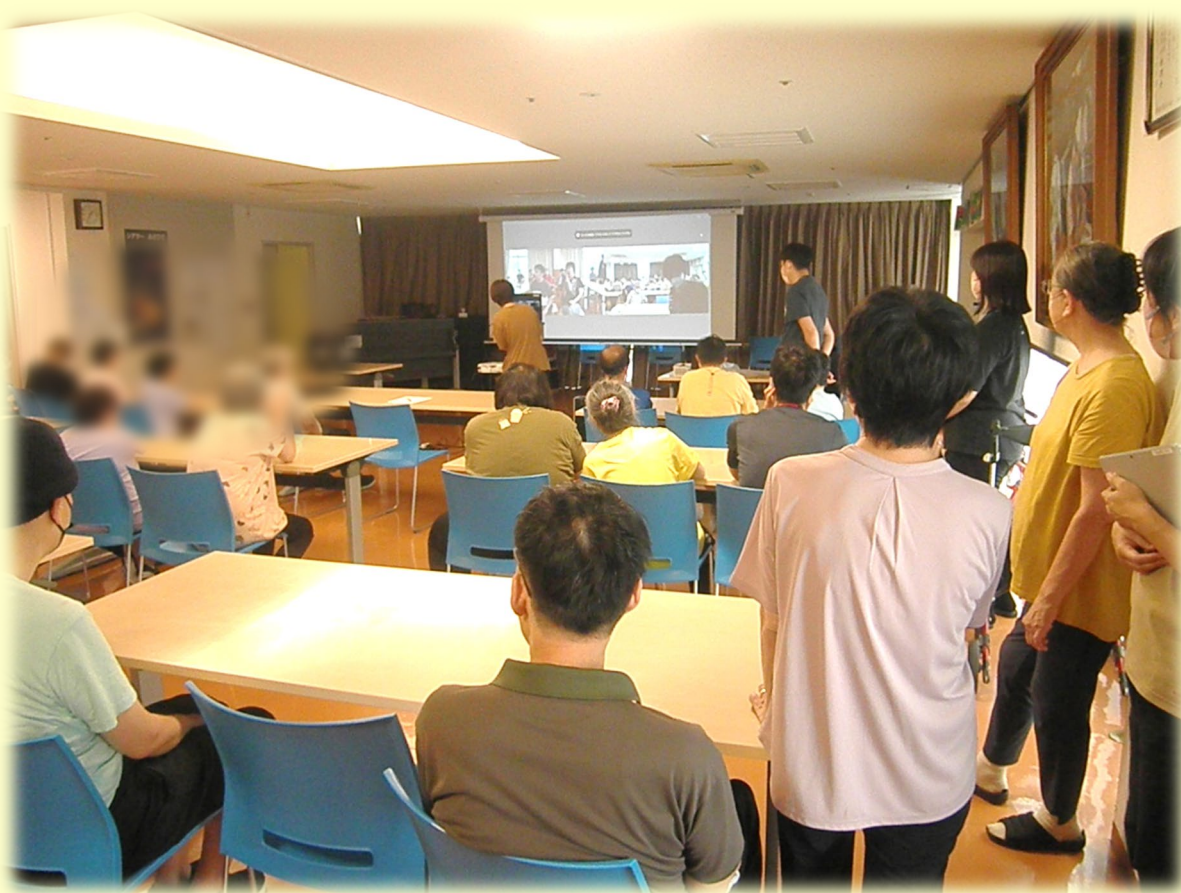


大泉あさひで通信

発行：社会福祉法人 大泉旭学園 旭出生産福祉園 〒178-0063 東京都練馬区東大泉 7-21-32
TEL：03-3925-6166 FAX：03-3925-6169 ホームページ <http://www.asahide.or.jp/>



大泉根旭出福祉園と
オンライン交流会を
行いました。
詳しくは7ページへ！



戦後80年、これからを考えるために、これまでを振り返る、
日本の障害児者の教育と福祉

大泉旭学園理事長
浅井 浩

■特殊教育から特別支援教育へ

戦後の新しい教育制度は、障害児の教育も義務制にし、障害の有無で学校を分け、障害種別に盲学校、聾学校、養護学校(知的障害・肢体不自由・病弱が対象に区分し、それらを特殊教育諸学校という括りで、その教育を「特殊教育」と称してきましたが、2006(平成18)年に、障害種別の学校の区分をなくして、特別な教育ニーズを抱えるいわゆる「発達障害」を含め、適切な教育指導と支援を行うという目的で法改正があり、2007(平成19)年4月から特殊教育諸学校は「特別支援学校」に一本化され、特殊教育は「特別支援教育」と改称し、現在に至っています。

障害児教育が義務制になった意義は大きいと思いますが、知的障害等が対象の養護学校(現在の特別支援学校の義務制が実施されたのは、新教育制度発足から32年目の1976(昭和54)年4月のことです。それは障害児教育の実績も乏しく、戦後の財政事情等もあり、障害児教育の義務制施行の期日は別に定めるとされていたからです。また養護学校の義務化に向けた学習指導要領の作成が大変難航したという経緯があります。それは知的障害等が対象の養護学校(義務制のない児童生徒の学校と同じ教科による教育内容に「準ずる」ことが規定されていたからです。養護学校の義務制の実施が遅れたことや養護学校の学習指導要領の作成が難航したという経緯からいえることは、日本の義務教育の制度は、障害のない児童の教育を優先する形で、障害児理解が不十分のまま進展してきたということです。

そもそも日本の教育制度は、明治新政府によって国力増強を図る政策として始まったわけで、それは立身出世のための教科学習中心の学力優先・学歴偏重の教育観となつて国民意識の中に根付くことになり、それは戦後の新たな教育法制度においても払拭されずにその根底に残されてきたと思います。それはこれからの学校の在り方や義務教育、障害児教育に関する諸問題を考える上で踏まえておかなければならな

い点であり、「インクルーシブ教育」や「共生社会」をめぐる問題を考えることも無関係なことではないはずです。戦後80年、教員の働き方をめぐる問題等も含めて、義務教育のあり方や学習指導要領などに関わる教育法制度の抜本的見直しが必要なきではいかと思います。

■障害者福祉施策の進展

障害者福祉の施策が本格的に始動するのも戦後です。それは戦災孤児や貧困家庭の児童や非行児童等への対応が急務であつた1947(昭和22)年に「児童福祉法」の制定で始まり、1951(昭和26)年に「社会福祉事業法」が制定されたことにより、行政の措置として進展しますが、総合的な障害者施策の基盤が整うのは、1970(昭和45)年に「心身障害者対策基本法」が制定された以降のことです。

児童福祉法は、児童全体の福祉と心身の障害や貧困等の問題を抱える児童等の社会的擁護をも目的としており、精神薄弱(＝知的障害)児の施設が設置されますが、児童福祉法の対象児は18歳未満をいうわけで、知的障害児の場合は18歳ないし20歳で独立自活の能力を身につけて児童施設を出るのは難しかったことから、法の一部を改正し、都道府県知事は、その者が社会生活に順応できるようになるまで施設に在所させることができるという規定を設け、入所後の年齢制限を設けないことにしたこと、児童施設に在所する年齢超過者が次第に増加することになりました。それが問題となつて、親の会の運動もあり、知的障害者の施設が設置されることになりましたが、そうした成人の施設を設置する根拠となる法制度がなかったことから、社会福祉事業法の一部を改正し、さらに「精神薄弱者福祉法(現在の知的障害者福祉法)」が制定され、障害者関連の諸施策が講じられるようになります。しかし諸施策に一貫性がなかったことから、各省庁が所管する障害者関連の諸施策の基本事項を定め、その総合的な対応を図る必要から制定されたのが心身障害者対策基本法です。

心身障害者対策基本法は、障害者関連の諸施策の基本となる法律ですが、当初の「障害」についての規定は、心身の機能や形態面に着目したものであり、精神薄弱(知的障害)は法の対象でしたが、精神障害は法の対象外でした。

者年」とそれに続く1983～1992年の「国連障害者の十年」を契機に変化してきました。

■障害者権利条約の批准と現状

世界的な動向を踏まえ、心身障害者対策基本法も1993(平成5)年に「障害者基本法」に改正・改称し、精神障害も法の対象となりました。

障害者基本法はその後も改正されて現在に至っていますが、2011(平成23)年の改正では、2006(平成18)年に国連で「障害者権利条約」が採択されたことが大きく関係しています。条約の批准には国内法令との整合性を図る必要があり、日本も、障害者基本法の改正をはじめ、障害者総合支援法、障害者虐待防止法、障害者差別解消法などを制定し、2013(平成25)年12月に批准が正式に承認されました。条約の批准に向けて法整備が進んだ意義は大きいと思います。しかしその実効性という点では問題や課題もあるのが現状だと思っています。

戦後の国民生活の変化に伴い、多様化、増大する福祉ニーズの対応を掲げた「社会福祉基礎構造改革」によって、2000(平成12)年6月に、社会福祉事業法は「社会福祉法」に改正・改称され、措置制度に代わる契約制度が導入されました。これにより行政の措置として提供されてきた福祉サービスは、サービスを提供する事業者と利用者の契約にもとづく提供となり、そのサービスの利用料を公費で支援する仕組みの「支援費制度」となりました。

ところが支援費の財源問題や制度の不備などから、厚生労働省は、「今後の障害保健福祉施策について」改革の「グランドデザイン案」を発表しました。この改革案をもとに策定されたのが「障害者自立支援法」です。

障害者自立支援法は、障害者の自立生活や就労支援等とそのための財源の確保を目的に制定されたわけですが、障害者の実情を理解したものではなかったことから、違憲だとして大きな問題となりました。いったんはこの法律の廃止が明言されたものの、廃止ではなく、法の改正で、法律名を「障害者総合支援法」に改め、現在に至っています。

障害者施策は国の在りようが大きく関係します。今後の動向を障害者権利条約との関係性を含めて、注視したいと思っています。(令和7年1月15日 大泉旭学園経営会議資料より)

国際福祉機器展

10月8日、東京ビッグサイトで開催された「国際福祉機器展(H.C.R)」に参加してきました。最新の技術やアイデアが数多く紹介されており、有意義な時間を過ごすことができました。

会場では介護ロボットや見守りシステム、車イス、リフト、入浴支援機器など幅広いブースでにぎわっていました。

特に興味深かったのがICT(情報通信技術)で、利用者の安全を守りつつ職員の負担を軽減させるといったコンセプトの製品が多くありました。

中にはすでに福祉園で使われている「眠りスキャン」もあり、福祉園にも最先端のものがあるんだ！とうれしい気持ちになりました。

実際に機器を体験できるコーナーも多数あり、触れてみることでカタログだけでは分からない操作感や使い勝手が確認できました。

その中で個人的に興味深かった機器等を紹介します。

「食事介助ロボット」

主にALS(筋萎縮性側索硬化症)の方が使用されるようにスプーンをつけたアームがとても滑らかな動きでお皿から食事をすくってってくれていました。ボタンを押すとアームが動くのですがそのボタンにも色々な種類があり、その方の動く部位に合わせてカスタムできるそうです。

「ベッド上で入浴する方法」

シートやついたてなどを活用してベッド上で入浴する方法を実演していました。とにかく工夫がすごく、やろうと思えばここまでやれるのかと感心しました。

「会議録や議事録をAIが自動で作成してくれるソフト」

ついに時代もここまで来たかと思いました。会議の場にパソコンを置いておくだけで自動で記録を作成してくれるソフトだそうです。記録にかかる時間を95%削減してくれるとのこと、純粋にすごいなと思いました。あとは私たちにこれが使いこなせるかどうかですね。

まとめとして、福祉園では利用者の高齢化に伴い、車イスの方も増え、入浴介助や、様々な支援が必要な方も増えてきています。他施設でもそういった話は多く聞かれているなか、各企業の方々が少しでも負担が軽くなるようにと努力してくれていることがうれしくなりました。

今回の展示会を通じて、技術の進歩とともに「より良いケアを実現したい」という多くの人々の思いを感じました。私たち職員も、こうした新しい情報や技術を積極的に取り入れ、利用者が安心して快適に過ごせる環境づくりに努めていきたいと思っています。

(落合)

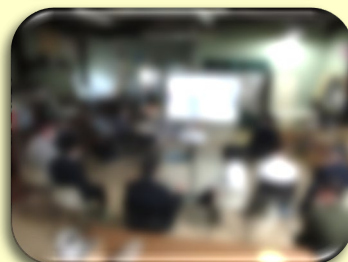
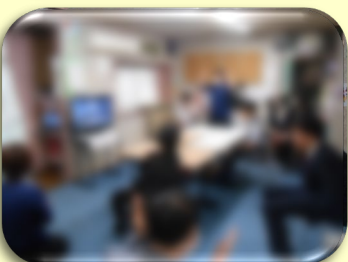




青葉のつどい

式典

今回の青葉のつどいは、あいにく雨になってしまい、学校と福祉園にわかれて行い、グループごとにもリモートで参加しました。旭出の創立を祝い、三木先生を偲びました。また三木先生について学び、発表をしました。その後はみんなで「花のまわりで」を歌い、「あおば音頭」を踊り式典をおさめました。

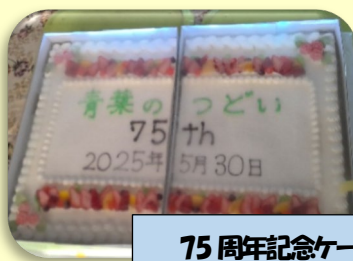


あおばフェスタ

午後は福祉園食堂にて、あおばフェスタを行いました。製品販売にゲーム、旭出の歴史シアター、三木先生クイズ、ジオラマ作成、75周年記念ケーキで祝いました。初めての試みでしたが利用者のみなさん楽しまれており大好評でした！



製品販売



75周年記念ケーキ



ゲームコーナー



ジオラマ

75周年記念制作

学校と福祉園で共同制作をしました。福祉園では「旭出」のシンボルマークを貼り絵で作成しました。みんなで一枚ずつ根気強く貼っていき素晴らしいものができました。



副委員長より

今年度より青葉のつどいが平日開催になった事で形が大きく変わりました。

青葉フェスタでは、委員で旭出学園の創立を祝うというねらいに沿って内容を考えました。

様々なアトラクションや記念のお祝いケーキなど、利用者が楽しめるイベントになったと思います。

今後も今回の様な形がスタンダードになっていくと思います。今年度はその元年として成功だったと思います。

(花田)

納涼会

8月24日に納涼会を行いました。
昼食は調理がこの日のために作ってくれたソーキそばとたこ焼き、フルーツポンチと納涼メニューをいただきました。

アトラクションでは盆踊りと模擬店にお菓子くじ引きをしました。

盆踊りでは定番の東京音頭や炭坑節に、アンパンマン音頭やマツケンサンバ、USAなどいろいろな曲で踊りました。職員がマツケンの衣装で登場してみんなで歌って踊り、大盛り上がりでした。模擬店ではわたあめ作りを体験しました。やってみると本当に割りばしに少しづつ巻き付いていつて立派なわたあめになりました。はじめてやる時はできるか不安でしたが、意外にきれいにできてびっくりしました。

お菓子くじ引きはひもに繋がっている中身がランダムに入っているお菓子を好みのものを狙って引きます。

おいしいものを食べて、歌って踊る、楽しい時間を過ごせました。

夏も後半戦、まだまだ暑い日が続きませんが、体調に気をつけて乗り切りましょう！

(本田)



映画鑑賞

8月21日に第2回目となる旭出シアター上映を行いました。今回は「となりのトトロ」を鑑賞しました。

大画面でみる映画はやはり迫力がありますね。ネコバスに乗ってお母さんの病院に行くシーンは抜群の迫力でした。上映後はおやつにスムージーを食べて余韻を楽しみました。次回にはなにを上映するのか、今から楽しみに待っています。

(落合)



入所棟カーテン

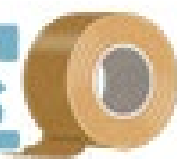
入所棟のカーテンを緑色からピンク色にしました。前のカーテンはだいぶ年が入っていたので心機一転新調しました。

もともとある家具の色に合わせて統一感を持たせました。こだわりポイントはレースカーテンです。(諸岡)





ものづくり教室



今年は 7/30、31、8/7、8 に『ものづくり教室』を4回開催しました。地域貢献事業の一環で昨年度より行っている活動です。今回は、色んな端材を使って作るビー玉コロコロと福祉園の製品でもあるタイルコースター、そして、旭出学園特別支援学校の教員でもあります、『新聞紙×ガムテープアーティスト』の関口先生をお招きして行われました。どの回も定員以上に申し込みを頂き、幼児・小学生、お父さんお母さん方と沢山の方が参加してくれました。

工作時間が始まると「このタイルどう並べようか？」と何度も並べ替えて試行錯誤している方もいれば、「ここをノコギリで切りたい、次はこっち！」とさくさく進め、こう来たか！と思わせてくれる作品が沢山ありました。

新聞紙×ガムテープアートでは、自分の好きなものを立体的に作れるとあって、好きな電車やキャラクターなど様々でした。また、参加者みんなで巨大生物を作る時間もあり、そんな中でも子供たちは力を合わせ作り上げる姿に感動しました。

どの作品もみなさんの創造力に圧倒され、更に来年は何をやろうかな～と職員の意欲も掻き立てられました。

約 100 名の方に参加いただき、終わりには「まだやりたい」「来年も来るね」と言ってくれるお友達もたくさんいて、楽しい時間を過ごす事が出来ました。また来年もお待ちしていますね！（石川）



関口先生の作品も
遊びに来てくれました

大利根旭出福祉園との オンライン交流会

8月に、大利根旭出福祉園とZOOMを使って、オンライン交流会を行いました。そもそも、交流会を行うきっかけは、「大利根に行った仲間は元気になっているのかな?」「大泉のみんなに会いたいって思っているのかな?」という職員や利用者さんの思いからでした。

会いに行きたいけど、ここから大利根まですぐには行けないし、感染症の心配もあるし、。

ならばオンラインで交流しよう!という意見がでました。



当日は皆で食堂に集まって、スクリーンの前でドキドキ・・・職員も、上手くZOOM操作ができるかドキドキ・・・見事、大利根旭出福祉園の映像が映ると、皆大喜びでした。わかるがわるな近況報告をして、お互い元気であることを確認しました。

中には、何十年(!!)も前に大利根に行った人との再会もありました。みんなの胸も職員の胸も、懐かしく嬉しい気持ち

ちでいっぱいになりました。
今後もお互いの近況報告をしましょうね!と約束してお別れしました。
(永濱)



オンライン交流会の様子

トウモロコシ迷路で探検!

近隣の農園で行われている、トウモロコシ畑の迷路に、カポックの小枝の皆さんが参加しました。参加も今年で5回目!年々広くなる迷路を皆で楽しみました。

迷路の他にも、トウモロコシの取り方も教えてもらいました。

Q、みなさん、トウモロコシを収穫するとき、実をどの方向に折るのが正しいか知っていますか?

正しい向きは何番でしょう?

1、真上

2、下

3、左右

答えは左下に書いてあります。



正解は、②でした!

後援会「寄付」ご芳名一覧（順不同）
令和七年四月～令和七年九月末まで

『みなさまからの「ご支援」協力に
厚く御礼申し上げます』



大泉旭出学園の事業につきましてはご高配を賜り感謝、お礼申し上げます。

特色ある独自性を発揮した事業展開とその充実を図っていくためには経営基盤を固めていく必要があります。さらに多くの方々に後援会の会員になっていただきたく、会員の方々にはお知り合いなどにご紹介いただけたら幸いに存じます。

より一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。



◇編集後記

3 年前に胃腸の調子を大きく崩したことがありました。原因を振り返ると忙しさにかまけて食事を適当に済ませることが続き、栄養バランスがめちゃくちゃだったことに気付きました。

これではいけないと反省し、食生活を改善しました。毎日水分補給をしつかりとすること、サバ缶、納豆、豆腐、卵を必ず食べるようにしたところすこぶる調子が良くなり、それ以来体調を大きく崩す事はなくいまのところとても元気です。

栄養のあるものをきちんと食べることが心身の健康にこれほど影響を与えとは思いませんでした。おかげで仕事はもちろん筋トレもとてもはかどっています。

皆さんもご自身の健康にお気をつけてお過ごしください。

（落合）

◇年間行事予定（10 月～3 月）

11 月 22 日	勤労感謝祭
12 月 29 日～1 月 2 日	一時休業
1 月 16 日	保護者会
3 月 27 日	保護者会